

早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム

大学の世界展開力強化事業 タイプB-1



本構想は、早稲田大学創設者の大隈重信が掲げていた「東西文明の調和」という理想に基づき、今後の国際社会において強いリーダーシップを発揮する人物を育成するプログラムである。米国の東海岸3大学と西海岸2大学の5大学との協働教育により、本学学部生のみならず米国の学部生を将来の世界のリーダーに育てる。

プログラムの目的・養成する人材像

現在・今後のグローバル化の特徴

アジアの台頭によって、これまでの西洋中心の世界から、東洋と西洋が1:1の世界になりつつある。こうした世界において、グローバル・リーダーとなる者は、東洋と西洋の両方の歴史・文化・社会を熟知し、その価値観を理解し、それらを互いに尊敬・配慮したうえで、優れた判断や意思決定を行うことが求められる。

育成する人材像

「東西文明の調和」のスピリットをもったグローバル・リーダー

東洋と西洋の両方の歴史・文化・社会等の知識

全世界に共通する高貴な価値観 勇気・奉仕・貢献

知的能力・コミュニケーション能力・人間力

世界中の様々な問題を自ら提示し解決する国際機関・各国政府・ビジネス界・アカデミクス等各界で卓越したリーダーシップを発揮できる人物

4年間のカリキュラム



全学の新生をを対象として日本・米国、東洋・西洋の歴史・文化・社会に関する講義を英語で提供



10月に成績・語学力・日英の二言語による論文試験等により、全学の新生から12名の候補者を選考



東洋・西洋の古典の講読、日本の歴史・文化に関する講義、並びに英語力とアカデミックスキルの訓練



通常の勉学のほか、リーダーシップ論の講義の受講自ら国際機関・現地企業でのインターンシップに参加



本学学生12名と米国学生12名の日米共同ゼミへの参加
グローバル・ 이슈の解決をテーマ
本学・米国相手校教員による共同指導



日米共同ゼミの成果について英語による卒業論文を執筆、国際会議などで発表

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

プログラム合同推進委員会

関係教職員により、単位の相互認定、成績管理の方法、科目の設置を審議する。

プログラム評価委員会

日米の有識者による第三者組織で、教育効果の検証・目標達成度の評価を実施する。

教育内容の可視化・成果の普及

シラバス・成績評価の可視化

シラバスを作成の上、成績評価の方法の明示、各科目の共通項目として「授業概要」、「授業の到達目標」、「成績評価方法」を明記する。

学内における成績評価基準の統一を実施する。

プログラムの普及

英語による科目の講義や招聘教員の講義を全学学生に公開するほか、「グローバル・リーダーシップ」副専攻を新たに設置し、全学学生に公開する。

学生の派遣・受入を促進するための環境整備

派遣学生及び留学生へのサポート

留学センターが、留学生の在籍管理、修学・生活・学生寮、インターンシップ等の支援を行い、派遣学生に対しては、留学前の準備教育から帰国後のフォロー教育まで、ワンストップのサポート体制を整備する。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H24年入学者より12名の学生グローバル・トップリーダー候補者を選考し、H25年より毎年米国に派遣する。

外国人留学生の受入れ

H26年より米国相手校より12名の学生を受入れ、本学の留学を終えた学生と日米共同ゼミを作る。

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	-	-	12	12	12
受入	-	-	-	12	12



【構想の概要】

本構想は、早稲田大学創設者が掲げていた「東西文明の調和」という理念に基づき、今後の国際社会において様々な分野で強いリーダーシップを発揮できる人物を育成するプログラムである。
米国東部の3大学と西部2大学の計5大学との協働教育により、本学学部生のみならず米大学の学部生を将来の世界のリーダーへと育成していく。

【プログラムの目的・養成する人材像】

プログラムの目的: アジアの台頭により、世界の経済・政治・文化はますます多極化し、一つの国だけの問題でない地球規模の問題への取組が急務となっている。こうした世界において、東洋と西洋両方の歴史、文化、社会を熟知し、その価値観を理解し、互いに尊敬・尊重しあったうえで優れた判断や意思決定を行うことができる人物を育てる。

養成する人材像: 『東西文明の調和』のスピリットを持ったグローバル・リーダー

東洋・西洋の歴史・文化・社会等の知識

世界共通の高貴な価値観・勇気・奉仕・貢献

知的能力・人間力・コミュニケーション能力

地球規模の様々な問題を自ら提起し解決する
国際/政府機関・財界・アカデミクス等
各界でリーダーシップを発揮できる人物

実施した交流プログラム概要／準備状況

米国パートナー校訪問&合同推進会議の実施

・米相手校5大学(コロンビア大学、ジョージタウン大学、ペンシルベニア大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学)への本プログラムの説明と議論の場を設けるため、各校を訪問し、今後の課題認識をすり合わせ、協力関係の強化につなげた。

・上記を受け、H23年3月に米相手校5大学より合計9名の教職員を日本に招致し、2日間の合同推進会議を実施した。積極的な意見・情報交換を行い、プログラム実施に向け全参加校が目的・課題を共有し決起する良い機会となった。H24年度においても、早速6月に継続協議の機会を設けることが決定している。



カリキュラムの検討

『グローバル・リーダーシップ学』副専攻科目の拡充に加え、導入教育科目、受入学生受講可能専門科目および日米合同ゼミの運営方法、研究テーマの検討を学内各学部と共に開始した。また派遣学生の選考基準、一期生に関する選考スケジュールの検討も行う。

本プログラム・コーディネーター(教員)・事務職員配置

本プログラムの運営、学生の指導に従事する任期付専任教員を国際公募により採用した。また当該教員と派遣・受入学生の支援、プログラムの運営に携わる職員2名を配置した。

教育内容の可視化・成果の普及

教育内容の可視化

・『グローバル・リーダーシップ学(GLS)』を全学部学生向けに全学共通の副専攻科目として新設。文系・理系問わず幅広い層の学部生に英語による講義を行っている。

・『グローバル・リーダーのための政治経済ビジネス入門』においては、190人を超える学生が受講する等、全科目で定員を超える登録があり、合計で432名の学生がGLS科目を履修している。

・学内におけるGLS副専攻の認知度は高く、来年度はGLS科目履修者の多くが本プログラムを通して米国5大学に留学する見込みである。

・学部・関係箇所より委員を選出しカリキュラム検討委員会を発足。英語による提供科目の中からGLS提供科目を抽出・検討している。

・一部授業のオンデマンド化に向けた準備を開始した。

科目	総合計
Language and Society	30
Shinto in Japanese History and Culture 01	25
The New Religions and Violence	25
グローバルリーダーのための比較文化入門	25
グローバルリーダー入門	63
Religion and Society in Modern Japan 01	26
Japanese Business and Global Management 01	47
グローバルリーダーのための政治・経済・ビジネス入門01	191
合計	432

プログラム・成果の普及

・広報物を日英両言語で作成、学内外への認知拡大・情報発信を行った。

・新入生オリエンテーションや留学説明会で当プログラム概要を説明した。

・専用HPを開設し、SNS(facebookおよびtwitter)も活用し、プログラムの内容を積極発信している。



学生の派遣・受入を促進するための環境整備

派遣・受入ともに専任の教育アドバイザー(教員)と事務職員2名がサポートを行う。

派遣学生へのサポート

留学前の準備教育、出願・渡航準備から、留学中の相手校事務室と連携した修学支援、帰国後のフォロー教育までGLP事務局での一貫したサポート体制を準備する。

受入学生へのサポート

留学生の在籍管理、修学支援、生活・学生寮のサポートから、インターンシップまで、ワンストップサービスをGLP事務局が提供する。

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

プログラム合同推進委員会発足

本学および米相手校5大学の教員と職員で構成されるプログラム合同推進委員会を発足し、第一回会合をH23年3月に実施した。

- ・学生の履修に支障がないカリキュラムモデルの策定、単位の相互認定、成績管理、学位授与についての検討を開始した。
- ・相手校にも当プログラム担当教員・職員の設置を依頼し、派遣前・派遣中・帰国後の科目履修や研究実施について、本学プログラム・コーディネーターと共に指導を行い、質の維持・向上を目指す。
- ・アカデミック・カレンダーの違いを活用した本学と相手校間での教員招聘について協議を開始。本プログラムに参加する日米学生へのチーム・ティーチングの可能性を検討している。
- ・『グローバル・リーダーシップ学』副専攻科目授業のオンデマンド化推進に際し、米相手校5大学への配信も検討を開始、カリキュラムの質の共有化を進めていく予定である。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H24年入学者より12名のグローバル・トップ・リーダー候補の学生を選考、H25年より毎年米国相手校に派遣する。

外国人留学生の受入

H26年より米国相手校より12名の学生を受入れ、米国留学を終えた本学の学生と日米合同ゼミに参加する。

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	—	10*	12	12	12
受入	—	10*	10*	12	12

*本プログラム開始に先立ち、既存の交換協定に基づき交流開始



【構想の概要】

本構想は、早稲田大学創設者・大隈重信が掲げていた「東西文明の調和」という理念に基づき、今後の国際社会において様々な分野で強いリーダーシップを発揮できる人物を育成するプログラムである。米国東部の3大学および西部2大学の計5大学との協働教育により、本学学部生のみならず米大学の学部生を将来の世界のリーダーへ育成していく。

【プログラムの目的・養成する人材像】

プログラムの目的： アジアの台頭により、世界の経済・政治・文化はますます多極化し、一つの国だけの問題でない地球規模の問題への取組が急務となっている。こうした世界において、アジア地域と西洋諸国双方の歴史、文化、社会を熟知し、その価値観を理解し、互いに尊敬・尊重しあったうえで優れた判断や意思決定を行うことができる人物を育てる。

養成する人材像： 『東西文明の調和』の精神を更に深め、多様な価値観を尊重した意思決定を下す**グローバル・リーダー**。



実施した交流プログラム概要／準備状況

第二回合同推進会議の実施

H24年3月に米パートナー校5大学（コロンビア大学、ジョージタウン大学、ペンシルベニア大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学）より9名の教職員を日本に招致した第一回合同推進会議に続き、H24年6月にパートナー校であるカリフォルニア大学バークレー校に計10名のパートナー大学プログラム担当教職員を招致した。

2日間に渡り、①米学生留学時のカリキュラムモデル、②日米共同ゼミの意義・内容、③フィールド・トリップやインターンシップ、パブリック・プレゼンテーション等の実施方法、④日米双方大学による単位認定方法、⑤米相手校による早大生の受入体制について他、プログラム実施に向け具体的な課題認識の擦り合わせを行った。



受入学部プログラム担当教職員によるパートナー大学訪問

「受入学部についてその特徴をより深く知りたい」という米国大学の要望に応えるべく、受入5学部の本プログラム担当教職員と共に米国パートナー校をH25年1-2月に訪問。職員による学部紹介に加え、教員より米国学生受入時の学部カリキュラム説明を実施し、学生受入れに関するより具体的な情報を米国大学と議論・共有を行った。



カリキュラムの検討

学内各学部と日米共同ゼミの学習内容や教育効果について協議を重ね、ゼミの担当教員および研究テーマを決定した。その他に、米国留学生受入時の各学部における受講可能科目についても決定した。また、プログラムに参加する日米学生が主体となり運営される「グローバル・リーダーシップ・フェローズ・フォーラム」の運営方法や、フィールド・トリップ、ボランティア活動、インターンシップについても具体的運用に向けた検討を開始した。

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

プログラム合同推進委員会、年一回の実施

本学および米パートナー大学の教職員で構成されるプログラム合同推進委員会を引き続き、年に一回実施していく。
・学生の履修に支障がないカリキュラムモデルの策定、単位の相互認定、成績管理、学位授与について、引き続き協議を続行していく。
・アカデミック・カレンダーの違いを活用した本学と相手校間での教員招聘について引き続き検討を行う。本プログラムに参加する日米学生へのチーム・ティーチングの可能性を模索する。

第三者評価委員会発足

本プログラムのパートナー校であるカリフォルニア大学バークレー校教員を含む海外協定校教員、国内教育界・財界の有識者を含む第三者評価委員会が発足。秋に第一回会議の実施を予定している。

教育内容の可視化・成果の普及

教育内容の可視化

・H23年度より新設した全学部生向け全学共通副選考科目『グローバル・リーダーシップ学（GLS）』について、H24年度は、春学期8科目432名、秋学期18科目1,310名の履修者数となり、H24年度は26科目1,742名の総履修者数に達した。内容の更なる拡充を行う。
・一部授業のオンデマンド化を実施。

プログラム・成果の普及

日本語版のみだった当プログラムのウェブサイトリニューアルを実施。トップページからは以下三つの切り口でプログラムに関する情報を得ることができるよう工夫した。

- ①早稲田大学の日本人学生向け画面
 - ②早稲田大学の外国人学生向け画面
 - ③パートナー大学の米国学生向け画面
- このように、プログラム認知拡大のための仕組み作り、および、情報発信を実施した。



学生の派遣・受入を促進するための環境整備

派遣学生へのサポート

選考された10名の一期生に対し、留学前の準備教育として、語学・アカデミックスキル向上を図るための集中コースを春休み期間中に実施した。更に、春学期中にはアメリカのクラス形式で、アジア・西洋の文化や社会の基礎教養知識を学ぶための科目履修に加えて、1泊2日の合宿（6月後半）を実施予定。

受入学生へのサポート

・H26年度から開始する米国学生受入に向け、H24年9月にカリフォルニア大学バークレー校の留学フェアに参加し、本プログラムの広報を実施。早稲田ブースには100名以上の学生が訪れた。
・H26年度から開始する米国学生受入に向け、ウェブサイトの内容を拡充。また、米学生向けに当プログラム広報チラシや動画の作成も開始し、米パートナー校における学生リクルーティングに活用してもらう予定。



交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H24年入学者を中心に10-15名のグローバル・リーダー候補の学生を選考、H25年秋学期より毎年米国相手校に派遣する。

外国人留学生の受入

H26年より米国相手校より派遣学生と同数の学生を受入れ、米国留学を終えた本学の学生と日米共同ゼミに共に参加する。

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	—	5*	12	12	12
受入	—	9*	0	12	12

*本プログラム開始に先立ち、既存の交換協定に基づき交流開始



大学の世界展開力強化事業 取組概要

早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム (選定年度23年度 (タイプB-1))

【構想の概要】

本構想は、早稲田大学創設者・大隈重信が掲げていた「東西文明の調和」という理念に基づき、今後の国際社会において様々な分野で強いリーダーシップを発揮できる人物を育成するプログラムである。米国東部の5大学および西部2大学の計7大学との協働教育により、本学学部生のみならず米大学の学部生を将来の世界のリーダーへ育成していく。

【プログラムの目的・養成する人材像】

プログラムの目的: アジアの台頭により、世界の経済・政治・文化はますます多極化し、一つの国だけの問題でない地球規模の問題への取組が急務となっている。こうした世界において、アジア地域と西洋諸国双方の歴史、文化、社会を熟知し、その価値観を理解し、互いに尊敬・尊重しあうことで優れた判断や意思決定を行うことができる人物を育てる。

養成する人材像: 『東西文明の調和』の精神を更に深め、多様な価値観を尊重した意思決定を下すグローバルリーダー。

東洋・西洋の歴史・文化・社会等の知識

世界共通の高貴な価値観- 勇気・奉仕・貢献

知的能力・人間力・コミュニケーション能力

地球規模の様々な問題を自ら提起し解決する 国際/政府機関・財界・アカデミクス等 各界でリーダーシップを発揮できる人物

実施した交流プログラム概要/準備状況

第3回合同推進会議の実施

第3回合同推進会議をH25年6月にジョージタウン大学で開催した。本会議には、既存の米パートナー校5大学(コロンビア大学、ジョージタウン大学、ペンシルベニア大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学)に加え、ジョンズ・ホプキンス大学およびダートマス大学も参加。計19名の米国大学教職員が集まり、①早大1期生選考プロセス、②米国大学における早大生の受入体制、③日米共同ゼミ教員によるゼミのシラバス説明、④米国学生募集方法、⑤プログラム評価他、プログラム運営に関する具体的な情報共有および議論を行った。



ジョンズ・ホプキンス大学、ダートマス大学の新規参加

第3回合同推進会議後、ジョンズ・ホプキンス大学およびダートマス大学より、プログラム参加の意思表明を受理。ジョンズ・ホプキンス大学については早大2期生の派遣から、ダートマス大学については米国2期生の受入からプログラムに参加することが決定した。いずれの大学からも、①少数精鋭の学生のためにデザインされたカリキュラムや受入体制の充実、②既存の米名門大学の本プログラムへのコミットメントの強さの2点を大変高く評価された。

ワシントン大学 オナーズ・プログラムとの連携

各大学における早大生受入体制について議論が進む中で、ワシントン大学は先方のHonors Programに早大GLFP学生を受け入れる体制を示した。ワシントン大学の中でも優秀な学生が集まる環境の中で、それらの学生と共に学び交流を深めることに留まらず、ワシントン大学では早大1期生と米国1期生が現地で共に学ぶセミナーが特別に開講されたことにより、米国学生の来日前から、日米フェロウズのコミュニティ形成が実現した。



質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

第1回 第三者評価委員会実施

H25年10月に初めての第三者評価委員会を実施。本プログラムのパートナー校であるカリフォルニア大学バークレー校教員を含む海外協定校教員、国内教育界・財界の有識者を含む評価委員会によるプログラムの評価が行われた。早大生の準備教育効果や、日米学生間のコミュニティ形成の重要性など教育に特化した内容から、補助金の運用方法や今後のプログラム継続方法等、多岐に渡る内容について活発な議論が交わされた。

カリキュラム検討委員会の実施

学内各学部のプログラム担当教職員が集まり、米国学生受入時のカリキュラムについて検討する委員会を実施した。

教育内容の可視化・成果の普及

留学ポートフォリオによる教育内容の可視化

留学中の早大1期生のアカデミックやソーシャルな体験を学生間や関連教職員と共有するため、留学ポートフォリオを導入。学生には、①自己紹介、②現地到着1カ月以内の近況報告、③留学先大学での体験や活動ブログ、④現地大学での履修科目、⑤プログラム提供カリキュラムに関する評価アンケート等について記録をさせた。このポートフォリオはプログラムの最後に振り返るための記録として、留学帰国後も卒業まで継続していく予定である。

ウェブサイトによるプログラム・成果の普及

プログラムに関する事務的な情報のみならず、参加学生の活動を紹介するため、ウェブサイトとリンクさせる形で"Archivesページ"を設立した。上記ポートフォリオと連携させながら、学生の留学中の活動や成長の記録を公に発信していくことで、プログラム認知拡大、および日米学生リクルートのための仕組み作りを強化した。



学生の派遣・受入を促進するための環境整備

派遣学生へのサポートおよび現地受入体制の整備

定期的実施した協定校訪問の場で、早大生の受入体制について意見交換を実施することで、ワシントン大学では"Honors Program"、コロンビア大学では"Scholars Program"という特別なコミュニティへの受入が実現した。その他の大学でも現地教職員による手厚いサポートを受けて、学生達は充実した留学生生活を過ごしている。

受入学生への広報活動の実施

H26年度からの米国学生受入に向けて、H25年9月にカリフォルニア大学バークレー校、および、コロンビア大学の留学フェアに参加し、現地留学中早大生と共にプログラム広報を実施した。また、米国学生向けのプログラム広報資料や早稲田大学のPR動画を制作し、米国大学と共有することで、現地での学生募集に大いに役立てて頂く事が出来た。



交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H25年秋学期より1期生となる早大フェロウズ10名を派遣。H25年入学者を中心に2期生を選抜し、新規協定校のジョンズ・ホプキンス大学への派遣学生を含める12名の学生をH26年秋より派遣予定。

米国留学生の受入

米国学生募集に注力した結果、当初10名枠のところを増枠の依頼を受け、計12名の学生をH26年秋より受入予定。

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	—	5*	10	13	14
受入	—	9*	0*	12	14

*本プログラム開始に先立ち、既存の交換協定に基づき交流開始H25が交流実績、H26以降は計画



大学の世界展開力強化事業 取組概要

早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム（選定年度23年度（タイプB-1））H26

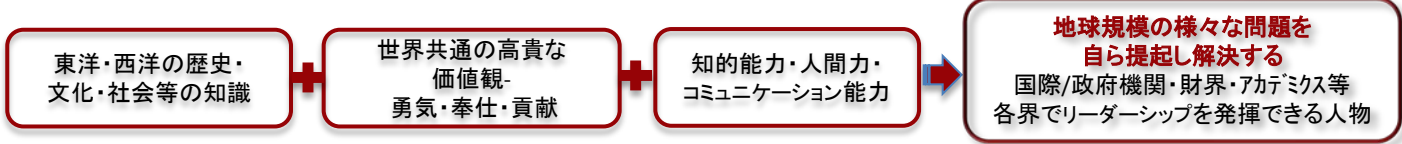
【構想の概要】

本構想は、早稲田大学創設者・大隈重信が掲げていた「東西文明の調和」という理念に基づき、今後の国際社会において様々な分野で強いリーダーシップを発揮できる人物を育成するプログラムである。米国東部の5大学および西部2大学の計7大学との協働教育により、本学学部生のみならず米大学の学部生を将来の世界のリーダーへ育成していく。

【プログラムの目的・養成する人材像】

プログラムの目的：アジアの台頭により、世界の経済・政治・文化はますます多極化し、一つの国だけの問題でない地球規模の問題への取組が急務となっている。こうした世界において、アジア地域と西洋諸国双方の歴史、文化、社会を熟知し、その価値観を理解し、互いに尊敬・尊重しあうことで優れた判断や意思決定を行うことができる人物を育てる。

養成する人材像：『東西文明の調和』の精神を更に深め、多様な価値観を尊重した意思決定を下すグローバル・リーダー。



実施した交流プログラム概要／準備状況

第4 回合同推進会議の実施

H26年6月に第4回合同推進会議をワシントン大学で開催した。本会議には、既存の米パートナー校6大学（コロンビア大学、ジョージタウン大学、ダートマス大学、ペンシルベニア大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学）が参加。計17名の米国大学教職員が集まり、①平成26年9月より開始となるIntegrated Study Year（日米共同ゼミ、グローバル・リーダーシップ・フェローズ・フォーラム）の概要、②米国大学における早大生の受入体制、③米国学生向けインターンシップの概要、④協定校担当者同士による米国学生募集方法の意見交換、⑤プログラム評価他、今後のプログラム運営に関する具体的な情報共有および議論を行った。



Integrated Study Year の開始

H26年9月より、Integrated Study Year（日米共同ゼミ・学生フォーラム）からなる1年間の日米学生の協働学習カリキュラムが開始した。2つのゼミおよびアジアにおけるグローバルな問題定義と提案を学生自ら企画し実践する学生フォーラムにおいて、日米の学生は共に異文化間の相互理解と相互協力を体験的に学んでいる。カリキュラムを通じて日米の学生達は絆の強いコミュニティを確立しており、そのコミュニティは続く2期生、3期生をも交え一つのGLFPコミュニティとして強い絆で結ばれ始めている。

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

相手大学の単位制度等への留意

専門分野の科目等を確実に履修し、単位の振替を十分にできるようにするため、本学において米国学生が所属する学部との連携および共同体制を構築し、英語による専門科目や日本語科目の優先登録制度を開始した。これにより、H26年9月より本学への留学を開始した米国1期生は、所属学部を越えて、専門科目や日本語科目等希望する科目を履修することが出来ている。

協定校訪問による関係職員・学生へのプログラム理解促進

協定校を訪問し、次期生へのリクルーティングへつなげるための支援としてインフォメーションセッションを行った。各校とも興味を持つ学生が参加し、直接話す機会を設定することが出来、本学より留学中の学生の協力も得て、プログラムの認知度向上に注力した。また同訪問において米国2期候補生と実際に会って面談を行い、出願書類だけではわかりうる多くの点と、協定校担当者が該当学生を自信を持って推薦した理由を確信することが出来た。

カリキュラム検討委員会の実施

学内各学部のプログラム担当教職員が集まり、米国学生受入時のカリキュラムについて検討する委員会を実施した。

構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

プログラム設置科目の充実化

グローバル人材育成事業がH26年度から設置した全学共通副専攻「グローバル・スタディーズ」と棲み分けを図るため、それぞれの科目の内容と目的別に振り分けた。各副専攻の特色を明確化したために総設置科目数（53科目/前年度96科目）は前年度より減少したが、多種多様な内容および実践的かつ高度な英語を身に着ける科目内容により、留学準備及び留学後のスキルUPを目的とした多くの学生からニーズを得た。総履修者数（2,219名/昨年度2,332名）の割合は増加し、一科目あたりより多くの学生が履修した。

ウェブサイトによるプログラム・成果の普及

プログラムに関する事務的な情報のみならず、参加学生の活動を対外的に紹介するため、ウェブサイトとリンクする形で「Archivesページ」を設置し、学生の留学中の活動や成長の記録、気づきを綴ったレポートを公に発信。協定校担当者への遠隔地における体験の共有、学外者への認知拡大と次期プログラム出願希望学生への参加促進に大いに役立った。



学生の派遣・受入を促進するための環境整備

早大プログラム生が留学中に取得した単位の振替

留学先の各パートナー校のGLFP担当教職員による科目履修による科目履修における適切なアドバイジングサポートにより、早大1期生は、帰国後の各所属学部における取得単位振替をスムーズに行うことが出来ている。現地教職員による手厚いサポートを受けて、学生達は充実した留学生生活を過ごしている。

受入学生へのインターンシップ先の開拓、実施

H26年に最終的に6つの米国学生インターンシップ受入先の開拓および契約締結を行い、H27年2月より1か月間、11名中7名の学生がインターンシップに参加した。インターンシップは大成功に終わり、日本でできないインターンシップの内容に、参加した学生の満足度は大変高かった。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H26年秋学期より2期生となる早大フェローズ11名を派遣。またH27年入学者を中心に3期生を選抜し、新規協定校のダートマス大学への派遣学生を含む15名の学生をH27年秋より派遣予定。

米国留学生の受入

米国学生募集に注力した結果、志高い11名の学生より出願があったが、経済的

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	—	5*	10	11	14
受入	—	9*	0	11	14

理由等やむを得ない理由により5名が辞退となり、計6名の学生をH27年9月より受入予定。H26年度より新規参加のダートマス大学は、H28年9月より受入れ開始となる。*本プログラム開始に先立ち、既存の交換協定に基づき交流開始



早稲田大学グローバル・リーダーシップ・プログラム

平成27年度取組概要

大学の世界展開力強化事業（採択年度23年度（タイプB-1））

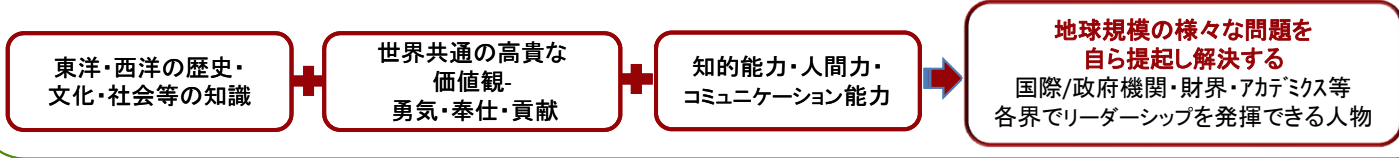
【構想の概要】

本構想は、早稲田大学創設者・大隈重信が掲げていた「東西文明の調和」という理念に基づき、今後の国際社会において様々な分野で強いリーダーシップを発揮できる人物を育成するプログラムである。米国東部の4大学および西部2大学の計6大学との協働教育により、本学学部生のみならず米大学の学部生を将来の世界のリーダーへ育成していく。

【プログラムの目的・養成する人材像】

プログラムの目的: アジアの台頭により、世界の経済・政治・文化はますます多極化し、一つの国だけの問題でない地球規模の問題への取組が急務となっている。こうした世界において、アジア地域と西洋諸国双方の歴史、文化、社会を熟知し、その価値観を理解し、互いに尊敬・尊重しあつたうえで優れた判断や意思決定を行うことができる人物を育てる。

養成する人材像: 『東西文明の調和』の精神を更に深め、多様な価値観を尊重した意思決定を下すグローバル・リーダー。



実施した交流プログラム概要 今後の開始に向けた準備

第5回合同推進会議の実施

H27年6月に第5回合同推進会議を早稲田大学にて開催した。本会議には、既存の米パートナー校6大学（コロンビア大学、ジョージタウン大学、ダートマス大学、ジョンズホプキンス大学、カリフォルニア大学バークレー校、ワシントン大学）が参加。計24名の教職員が集まり、①Integrated Study Year（日米共同ゼミ、グローバル・リーダーシップ・フェローズ・フォーラム）の経過報告、②米国学生向けインターシップの実施報告、③協定校担当者同士による米国学生募集方法の共有、意見交換。④プログラム評価および、今後のプログラム運営に関する具体的な情報共有、議論等を行った。



学生フォーラム発表会の実施

H27年6月の合同推進会議実施直後に当プログラムの必須科目である、学生フォーラム（グローバル・リーダーシップ・フェローズ・フォーラム）の第1回目の発表会を本学大隈記念タワーにて実施した。アメリカ協定校の教職員、また学内外から多くの方に出席を頂き、学生計5グループの発表を行った。学生の発表内容、質ともに充実していると高評価を得、また会場からの質問も多くなされ、盛会のうちに終了となった。

Integrated Study Year の実施

H27年9月より、2期目となるIntegrated Study Year（日米共同ゼミ・学生フォーラムからなる1年間の日米学生の協働学習カリキュラム）を実施した。日米双方の学生の不安をなくすべく、またコミュニティ形成の一環として、授業開始前に1泊2日のフィールドトリップ（軽井沢）を行った。2つのゼミおよびアジアにおけるグローバルな問題定義と提案を学生自ら企画し実践する学生フォーラムにおいて、日米の学生は共に異文化間の相互理解と相互協力を体験的に学んだ。カリキュラムを通じて日米の学生達は絆の強いコミュニティを確立している。

自己予算の獲得

当助成事業終了後も当プログラムを永続的に継続して行くことが決定した。これを受けて、一部、外部機関からの資金寄付および、学内関連部署と協議、検討の結果、次年度以降も自己資金で運営して行けることになった。

質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

カリキュラム検討委員会の実施

学内各学部のプログラム担当教職員が集まり、米国学生受入時のカリキュラムについて検討する委員会を実施した。

教育内容の可視化・成果の普及

ウェブサイトによるプログラム・成果の普及

プログラムに関する事務的な情報のみならず、参加学生の活動を対外的に紹介するため、ウェブサイトとリンクする形で“Archives ページ”を設置し、学生の留学中の活動や成長の記録、気づきを綴ったレポートを公に発信。協定校担当者への遠隔地における体験の共有、学外者への認知拡大と次期プログラム出願希望学生への参加促進に大いに役立った。

GLFP1期生修了報告書の作成

プログラム参加学生第1期生が主導となって、学生視点で当プログラムのカリキュラム、各種イベントをまとめた修了報告書を作成した。学内外の関係機関、関係者に報告書を送付し、当プログラムの成果につき公表した。



学生の派遣・受入を促進するための環境整備

新規協定校の開拓

これまでアメリカ東部および西部の大学のみ協定校であったが、当プログラムを今後、拡大して行くため中西部の大学（シカゴ大学、ノースウェスタン大学、ミシガン大学）とも先方へ訪問のうえ、当プログラム参加の可否につき協議を行った。いずれの大学とも非常に良い関係にあり、近い将来に当プログラムに参加する可能性が高い。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

H27年秋学期より3期生となる早大フェローズ15名を派遣。またH27年入学者を中心に4期生を選抜し、14名の学生をH28年秋より派遣予定。

米国留学生の受入

計6名の学生をH27年9月より受入。H26年に比べ学生数が減少したため、積極的にアメリカ協定校での学生リクルートに努めた結果、H28年度は11名の学生を受入予定。

	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	—	5*	10	11	15
受入	—	9*	10*	11	6

* 本プログラム開始に先立ち、既存の交換協定に基づき交流開始